

マッチングによる令和 6 年度の実績について

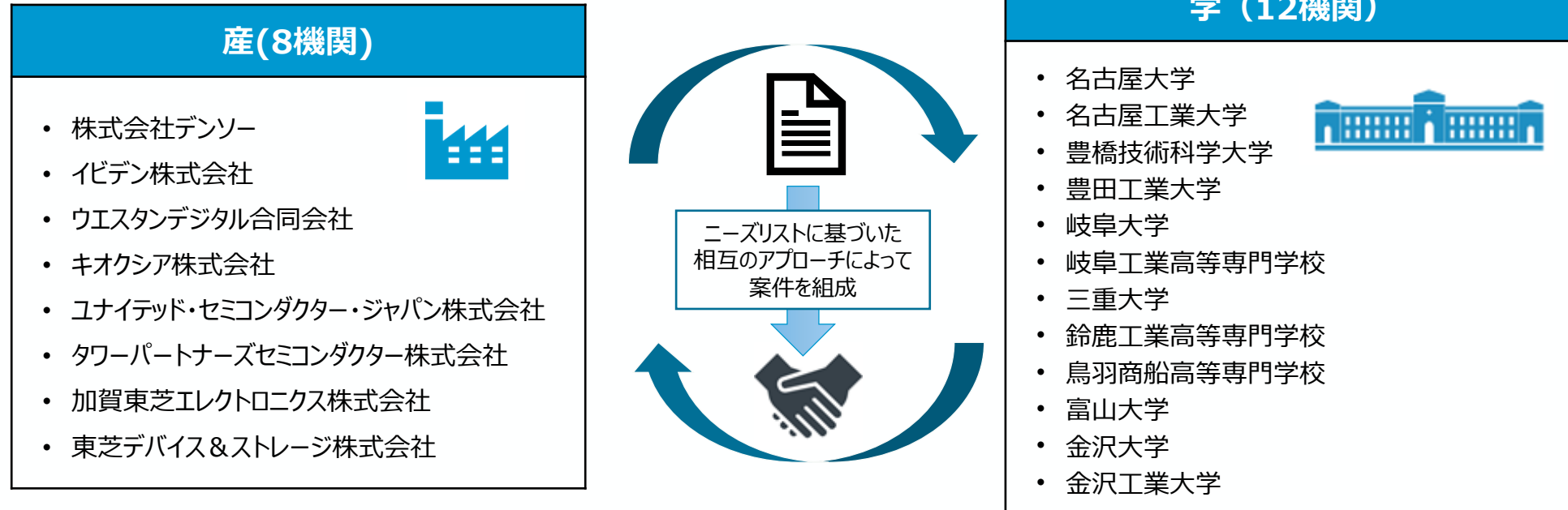
令和 7 年 7 月 1 6 日

経済産業省 中部経済産業局

(中部地域半導体人材育成等連絡協議会 事務局)

マッチングによる取組の実施結果について（令和6年度）

- 産・学の参加機関から、工場見学会、インターンシップ、特別講義、業界説明会など、取り組みたい項目を発表いただき、『取組ニーズリスト』として取りまとめた。
- その後、当該リストに基づき、各機関における連携先・取組に係る意向を集約。機関間での調整を経た結果、昨年度年度に実施されたマッチングによる取組件数は**73件（上期26件+下期47件）**（※）。
- 組成された取組に参加した学生の総数は、**延べ約2,500人以上**。教員に対しても、**約22人（延べ数）**に対して工場見学等を行うことで、教育機関側の知見の向上を図った（※）。



【※件数のカウントに係る備考】

- ・インターンシップは、人数や実施時期、受入拠点等の設定によらず、教育機関からの送り出し先となった企業との組み合わせを1件としてカウント。
- ・1つの取組に複数の機関が参加している場合は、1件としてカウント。（例：A社がB大学及びC高専を対象に工場見学を合同で実施。）
- ・連絡協議会設置前（2023年3月以前）の取組については含んでいない。／・教育機関同士の取組も一部含んでいる。
- ・取組の調整過程でリストに登録していた案件以外についても追加で取り組むことになった案件などもあり、当初見通しの件数よりも増えている。

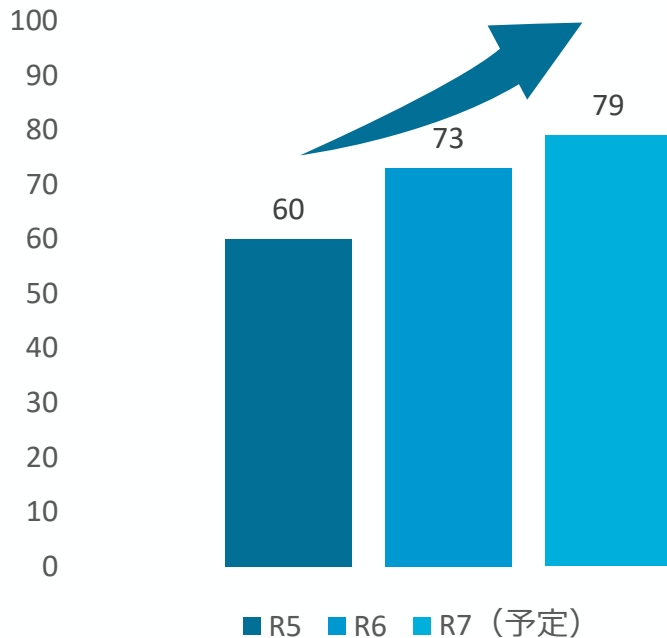
【※参加者数のカウントに係る備考】

- ・令和5年度中（～2024年3月末）までに行われた、参加者数が特定可能な取組を対象としてカウント。
- ・同一の学生等を対象とする連続講義の一環として実施された取組については、重複でのカウントは行っていない。

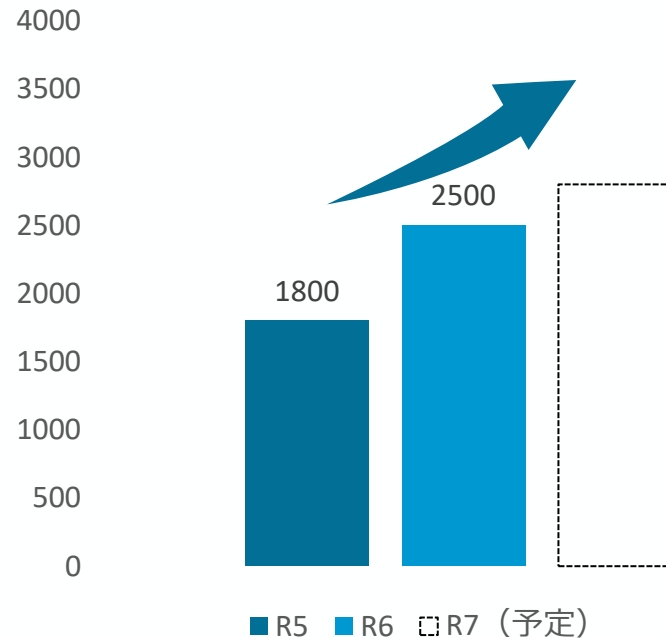
マッチングによる今年度の取組予定について

- 年度当初の確認時点において、産学双方の意向が一致している案件は通年度で**約79件**あり、中部地域における半導体人材育成の取組が拡大している状況。また、「新規連携希望」の案件も多数提出されており、さらなる取組拡大も期待される。
- 協議会参加の全機関は、少なくとも1つ以上の取組に関与いただいております、地域一体となった人材育成の取組が行われている状況。**

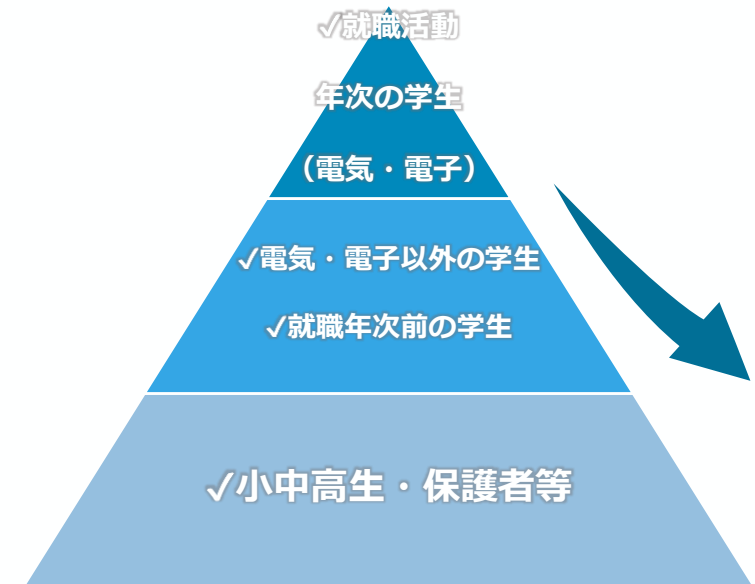
マッチングによる取組実績推移



取組に参加した学生数推移



ターゲット層の拡大



マッチングによる取組の具体例（R6上期実績）

取 組	企 業		教育機関	実施予定内容
工場見学	デンソー	⇔	名古屋大学	時期：7月31日 対象：工学部・工学研究科（修士1年生）及び米国留学生 内容：同学最先端半導体研究戦略室主宰の『UPWARDS Summer Intensive Program 2024』の企画として、同社の工場見学を実施。
インターンシップ	企業×大学、企業×高専で多数実績あり。			
特別講義	ウエスタンデジタル	⇔	名古屋工業大学	時期：7月30日 対象：電気・電子系大学院1年 内容：大学院講義科目「半導体プロセス工学特論」の1コマとして90分間の講義を実施。
	タワーパートナーズ セミコンダクター	⇔	金沢大学	時期：6月19日 対象：理工学域 電子情報通信学類 電気電子コース／情報通信コース3年生 内容：「集積回路工学」の1コマとして「半導体産業とアナログ半導体デバイス」の内容について、外部講師として登壇。半導体の基礎知識や歴史をはじめ、製造工程、産業の構造、各国の動向、アナログ半導体の技術開発について講義。
	東芝グループ （東芝デバイス&ストレージ、 加賀東芝エレクトロニクス）	⇔	金沢工業大学	時期：5月23日 対象：全学科2年生対象 内容：全学科対象の選択科目「教養としての半導体技術入門」の1コマで「パワー半導体」について、外部講師として登壇。

マッチングによる取組の具体例（R6下期実績）

取 組	企 業		教育機関	実施予定内容
工場見学	ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン	⇔	鳥羽商船高専	時期：10月22日 対象：情報機械システム工学科4年 内容：工場見学旅行の一環で実施。会社紹介/職種紹介や、CR見学（ライブカメラ）、仕事紹介、質疑応答など
	キオクシア	⇔	岐阜高専	時期：11月13日 対象：電気情報工学科 3年生 内容：キャリア教育の一環とで実施。ウェハーから半導体素子ができるまでの過程及び処理に関する説明、製造現場の見学、質疑応答 など
		⇔	鈴鹿高専	時期：12月4日 対象：電気電子工学科 4年生 内容：工場における半導体製造工程の見学、質疑応答 など
インターンシップ	企業×大学で多数実績あり。			
業界説明会	協議会参加の一部企業 （※協議会外の企業含む）	⇔	豊田工業大学	時期：10月～12月 対象：全学年対象（主に就職活動学生） 内容：各教育機関主催の業界説明会に参加いただき、企業より説明を実施。
		⇔	三重大学	
		⇔	富山大学	
特別講義	イビデン	⇔	岐阜大学	時期：1月21日 対象：工学部 電気電子・情報工学科 電気電子コース 3年生 内容：外部講師として「電子部品の歴史、半導体周辺技術・ビジネス」について講義。
	東芝グループ （東芝デバイス&ストレージ、 加賀東芝エレクトロニクス）	⇔	名古屋工業大学	時期：11月5日 対象：大学院工学研究科 工学専攻 電気電子プログラム 修士1年生 内容：大学院特別講義の一環として、SiCパワーモジュールの技術動向と研究事例の講義

取組における工夫やその効果、課題など①

○…企業 / ●…教育機関

工場見学会の実施

- （工夫）参加者には入学したての1年生がいることも踏まえ、製造工程がイメージしやすいビデオ（自社制作）を見学前に見てもらい、理解度向上に努めた。
⇒（成果）初回よりも理解度が向上（「学術的な内容までは理解が及ばなかったが、非常に有意義だった」とコメントあり）。
- （工夫）クリーンルームの入室制限により、これまで少人数の受入のみ対応としていたが、学生向け見学として1クラス単位の依頼などが二一スが増えてきていることに対応するため、クリーンルーム見学班とライブカメラ班に分けてハイブリッド型の工場見学を実施
⇒（成果）学生向けに直接PRする機会を持てたことで半導体業界や当社へ興味を持ってもらうことができ、インターンシップの参加、人材獲得に繋がった。
- （意見）半導体産業を志望する学生も出てきており、大変有意義だった。
- （意見）学生からの評判も良いため、今後も年に複数回のペースで定常的に実施したい。

インターンシップの実施

- （工夫）職業体験型の5日間のプログラムにおいて、学生の習熟度に合わせたグループ分けを実施。
⇒（成果）初心者から上級者まで満足度が上がったとみられる。また、6名中3名が内々定を受諾。
- （工夫）受入れテーマに関して、期初に各部門の受入可能枠（テーマ、時期、人数等）を確保後に、各教育機関からの要求に対応。
⇒（成果）受入部門の負担軽減に繋がった。
- （課題）工場見学・インターンシップ共に全ての参画機関と協業をしたいが、そこまでの受入キャパが無い。社内リソースの確保には、結果が必要であり、現時点ではそこまでの結果が出ていない。
- （工夫）インターンシップの報告会を学内の他学年も聴講可能としている。
⇒（成果）参加者が報告を行うことで、その会社・事業内容などが下級生へ認知され、翌年のインターンシップに繋がる効果がある。

取組における工夫やその効果、課題など②

○…企業 / ●…教育機関

特別講義の実施

○（工夫）技術・開発部門の若手マネージャーを講師として講義を実施。講義対象の学生（学年、専門性等）を踏まえて講義内容を調整。

⇒（成果）学生から「最前線の技術者のリアルな話を聞いて、とても勉強になった。半導体業界に興味を持った」との感想があった。

※中部地域半導体人材育成等連絡協議会の協業実績を踏まえ、他大学や高校での特別講義依頼に繋がってきている

●（工夫）2024年度より、「最先端半導体レクチャー」の講義群を立ち上げ、取り扱いを統一。

⇒（成果）持続可能な体制・仕組みを構築。

●（意見）毎回単発かつテーマも大きく異なるため、学生も急な話で理解が追いつきにくい。しかし、90分で基礎から応用を話すのは困難なため、前もって講義内容の詳細を教員が聞いておき、基礎的な部分を教員が講義した後に、企業による講座を実施するとより効果的では。

業界説明会の実施

○（工夫）通常の業界説明会では、技術系の採用担当者とOB社員が説明員として対応するが、フェローを派遣メンバーに加えることで、より専門性の高い技術的な説明を可能とした。

⇒（成果）学生に対して技術の深みや魅力をより具体的に伝えることが出来た。

●（成果）就職を希望する学生を中心に学内説明会を実施し、昨年度に引き続き、半導体枠を設けて実施できた。

その他の意見

●共同研究や人材交流など産学連携も含めた活動に発展していくことに期待。

●協業には距離的な問題が発生。オンラインも考えられるが、直接・対面での取組・イベントの方が効果が高い認識。

事例：USJC×桑名市×愛知工業大学・三重大学・岐阜高専

- 令和6年8月22日、桑名市及び桑名発明会と共催し、小学生向け夏休みイベント「親子理科工作教室」を桑名市役所で開催。
- 1日合計56組が参加。**愛知工業大学・三重大学・岐阜高専の講師指導のもと、半導体について学びながら親子で工作体験。



定員に対し、5倍の申込実績



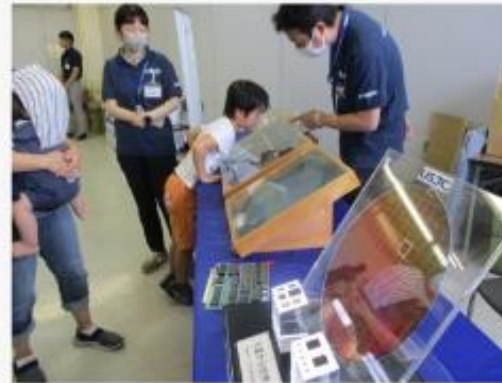
(午前の部 参加者集合写真)



(午後の部 参加者集合写真)



(工作教室の様子)



(ウェハー展示の様子)

出典：USJC社 HPより引用
(<https://www.usjpc.com/wp/topics/7006/>)